

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	エル・ソーラ仙台
2 指定管理者	公益財団法人せんだい男女共同参画財団
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 60,479人(前年度比 111.2%) 令和5年度 54,399人 令和4年度 41,995人 《事業》 ・施設の管理運営 ・男女共同参画関連情報の収集提供 ・各種相談の実施 ・男女共同参画に関する市民活動の支援及び交流の促進 ・大規模災害時における仙台市女性支援センターの運営
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 223,834千円 (225,401千円) ・ その他市が負担した費用 112,684千円 (112,638千円) 《収入》 ・ 使用料収入 6,415千円 (7,179千円) ・ その他収入 45千円 (48千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ①利用者アンケートの実施 令和6年11月12日から12月10日まで施設利用者に対してアンケートを実施し、アンケート結果及びサービス改善に対する提案・意見への回答を施設内に掲示するとともに、ホームページ上で公開した。 ②センター利用団体交流会の実施 年度始め及び「男女共同参画推進せんだいフォーラム2024」期間中に、センター利用団体同士の情報交換を促す交流会を実施し、利用者の意見を職員が聴き取った。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的および施設運営上の基本方針に基づき、適切に管理・運営されており、目的達成に向けて職員一人ひとりが事業企画や施設管理に反映できるよう、月一回開催する全体会等の会議や研修の機会を通じて意識共有を図っている。図書資料スペース所蔵の図書への関心を高め、利用促進を図るため、エル・ソーラ仙台を主体として、テーマに沿って選定した図書や主催事業の関連図書を姉妹館であるエル・パーク仙台との連携により紹介・展示した。併せて、館内の壁面や展示スペースを活用し、センターの事業および機能紹介を常時行っているほか、男女共同参画推進への理解と関心を高めるための企画展示も随時実施している。さらに、利用者が公平・公正に施設を利用できるよう、情報提供および受付対応を行うとともに、市民交流・図書資料スペースの運営や財団の市民活動サポート事業を通じて、市民が自主的に活動できる支援・交流の場の提供を行っている。	21/21
II 施設の運営管理体制	職員の勤務状況、配置状況、施設の開館、指定管理料について適切に管理されているほか、イベント開催時や繁忙期も、施設運営や市民サービスに支障を来さないよう、柔軟な職員配置を行っている。情報セキュリティ対策では、記録媒体やデータの保管・管理を適切に行っているほか、年一回の内部研修等によりすべての職員が個人情報保護について高い意識を持つよう努めている。また、事故発生時や非常時の体制も整備し、随時見直しを行っているほか、男女共同参画に係る施設の全国組織で運用する相互支援システムを活用し、災害時には全国の加入施設と連携、支援を行う体制を整えている。	31/31
III 施設・設備の維持管理	建物・設備・備品の適切な維持管理を行うとともに、清掃・警備等の委託業務についても、随時情報を共有しながら適切な管理を行っている。また、環境への配慮については、ブラインドの使用による冷暖房の効率化や窓際の消灯による節電を実施するとともに、利用者にはゴミの持ち帰りを呼びかけるなど積極的な対応を行っている。	20/20
IV サービスの質の向上	服装や身だしなみ、電話窓口での対応など、日常的に適切な対応に努めており、姉妹館であるエル・パーク仙台との定期的なミーティングを通じて、常にサービス向上のための情報共有を行っている。また、貸室の備品等について写真付きの資料を用意し、申し込みの際に提示しながら説明を行ったり、研修室内の音響・映像機器の操作マニュアルを見直し、よく使われる機能に絞り大きな文字と写真で簡潔に記載した簡易版を作成するなど、初めて施設を利用する方や操作に不慣れな方にも分かりやすいよう工夫を行っており、常に利用者目線に立ったサービスの提供に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	施設の使用許可、使用料の徴収・収納・還付事務については、規程類に基づき適切に実施されている。 図書業務については、本を題材としたジェンダーに関するミニイベントを年4回開催したほか、新たな図書との出会いを促す「ラッピングブック」企画を令和6年度より新規に実施し、既存利用者から好評を得るとともに、地元紙に取り上げられるなど、新たな来館者の獲得にもつながった。 相談事業については、関係機関と連携して実施している出張型相談会や協力団体連絡会等を通じて、多様な支援内容の把握に努め、相談支援体制の向上に取り組んでいる。また、仙台市内外の電話相談や制度等の情報を整理した「社会資源情報ファイル」を令和6年度から新たに整備し、随時更新することで、相談者の状況に応じた情報提供に努めている。併せて、各種援助制度の最新情報を把握するため、関係機関への視察や課内勉強会等を実施している。また、困難を抱える女性への支援事業では、参加者同士で語り合う場を提供したり、出張型相談会を実施したりと、積極的に各種支援に取り組んでいる。 女性活躍推進事業では、開始から10年を迎えた「企業の未来プロジェクト」は、参加企業が延べ252社、「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」修了者が延べ257名となり、地元企業の女性活躍推進や女性リーダーの育成に寄与している。同プログラムと、エル・パーク仙台で実施している地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く」の修了者が登壇した世界防災フォーラム(2年ごと開催)では、約130名の来場者数があり、地域団体や企業等、まちづくりの様々なセクターで女性がリーダーシップを発揮できる仕組みを考える機会となった。	32/30

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人せんだい男女共同参画財団）による自己評価》
仙台市の男女共同参画推進の拠点施設として、エル・パーク仙台とともに2館で機能を分担し、センターの設置目的に則った管理運営を行っている。施設管理、市民交流・図書資料スペース運営、相談業務を協定書・仕様書に沿って円滑に実施するとともに、指定管理事業と財団自主事業等を連携させながら効果的に施設運営を行っている。 (1) 施設管理及び市民交流・図書資料スペースの運営 窓口での丁寧なニーズの聞き取りや分かりやすい説明を心がけたほか、施設内の設備・備品や案内を随時更新し、利用者の使い勝手を意識した施設運営を行った。また、障害者への合理的配慮に向けて、エル・パーク仙台で先行して実施していた耳の不自由な方への窓口対応の案内やツールをエル・ソーラ仙台にも導入した。課内会議及びエル・パーク仙台受付担当職員とのミーティングを毎月行い、サービス向上のための情報共有を図っている。 エル・ソーラ仙台に所蔵している男女共同参画に関する図書の利用を促進するため、テーマを決めたピックアップ図書の展示、主催事業の会場での関連本の紹介のほか、本を題材にジェンダーについて語り合うミニイベント(年4回)、新たな図書との出会いを促すラッピングブック企画(年1回)を実施し、利用者の拡大につながっている。 (2) 男女共同参画推進に関する相談事業 職場での人間関係に悩む相談が増加傾向にあることから、自立支援事業「“気持ちを伝える”ミニ講座 働くときのコミュニケーション」を新規事業として実施し、相談事業から見える社会課題の解決に向けて事業化を行った。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
エル・ソーラ仙台の管理運営にあたっては、利用者の意見や要望を適切に取り入れながら、男女共同参画推進センターとして、市民活動支援および男女共同参画の推進に資する積極的な施設運営を行っている。 図書資料等収集・情報提供事業については、主催事業や相談事業等と関連するテーマに基づき図書をピックアップするとともに、関連図書をエル・パーク仙台でも貸出可能とするなど、図書利用の促進に積極的に取り組んでいる。また、新たな図書との偶然の出会いを促す「ラッピングブック」企画を令和6年度より新たに実施した。これらの取組は既存利用者から好評を得たほか、地元紙でも紹介され、新たな来館者の獲得にもつながっている。 相談事業では、DVなど女性への暴力被害者への安全確保にも配慮した相談対応や、自助グループへの支援を継続して実施している。また、関係機関との連携により、対象者の状況やニーズを把握し、就業自立相談やキャリア支援事業へとつなげている。定期的に関連施設への視察や研修を実施することで、各種援助制度の最新情報の把握にも務めている。困難を抱える若年女性への支援事業として実施した出張型相談会では、2回の開催で延べ233名が参加した。また、支援団体等の連携による相談事業で実施した出張型小規模相談会は、3回の開催で延べ74名の参加があった。これらの相談会等を通じて、支援を必要とする女性と民間支援団体をつなぐ場を提供している。 女性活躍推進事業では、「企業の未来プロジェクト」が開始から10年を迎え、延べ252社が参加し、「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」の修了者は延べ257名に達した。地元企業における女性活躍の推進や、女性リーダーの育成に寄与しており、社内研修への講師派遣等を含め、質の高いコンテンツを提供しながら支援を進めている。 指定管理者としては、関係条例等に基づく適切な施設運営を行うとともに、地域の女性、団体、企業等とのネットワークを広げ、多様な主体との連携を通じて発信力を高めている。これらを通じ、男女共同参画推進センターとしての役割を十分に果たしており、非常に優れた運営管理が行われていると評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項	
図書資料の利用促進、男女共同参画推進に資する情報の効果的な発信	図書資料に関するレファレンス対応事例の蓄積・共有や、職員同士によるブックトークの活動を通して、職員の対応力や専門性の向上を図っている。また、SNSによる情報提供を強化するため、課を横断したプロジェクトチームを設け、講座・イベント情報や、センターの機能紹介、図書や相談に関する情報等を定期的に発信している。
働く場における女性の活躍推進事業	企業の女性活躍推進をサポートする「企業の未来プロジェクト」は10年目を終え、延べ252社(実数で86社)が参加。令和6年度から新規企業優先枠を設け、新規参加と継続参加とのバランスをとりながら地元企業の女性活躍推進を後押ししている。事業広報については、財団が持っている企業リストや在仙の経済団体の広報ツールを活用し、多くの企業への周知や参加につながっている。また、「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」の修了者ネットワークと協働で実施している働く女性向け事業は、働く女性のニーズに合った情報交換の場となっているほか、修了者に登壇やファシリテーターなど活躍の場を提供でき、彼女たちのエンパワーメントにもつながっている。企業向けセミナーにおいても、「企業の未来プロジェクト」参加企業に登壇の機会を提供し、女性活躍推進企業の見える化を図っている。
困難を抱える女性への支援事業	困難な状況にある女性を支援するため、令和5年度に引き続き、支援団体等との連携による出張型相談会や一時的な居場所を提供するレスパイト事業、相談機関等の情報提供も兼ねた生理用品の配布を行った。令和6年度は、女性たちの相談行動のハードルをさらに下げる試みとして、小規模な出張型相談会「女子のための“ミニ”ほっとスペース」を試行的に実施。これまで培ってきた市内の若年女性支援団体との連携を活かし、より効果的で持続可能な支援のあり方を探った。また、令和4年度に実施した「仙台市女性の暮らしと困難に関する実態調査」の結果を踏まえ、令和5年度から20代までの若年女性に対象を絞ったカフェ(ミニレクチャーと話し合いの場)を継続して実施している。支援団体と連携して当事者に届けたい内容を伝えるとともに、参加者の孤立感の軽減につながる場となるよう工夫している。

◎ 評価担当課(施設所管課): 市民局市民活躍推進部男女共同参画課